



東中だより

目指す学校像
キャッチフレーズ

生徒一人一人を大切にし 信頼される学校
蕨東の あいさつ一つで笑東へ

生徒数(名)
男子 195
女子 181
計 376

節目

校長 阿部 仁

～新緑の季節の到来～

今年の春は、桜の開花から満開までは駆け足だったように思いますが、その後に散り始めるまでの期間が例年より長く感じられました。今では、つつじが咲き誇り、木々も次第に新緑の芽を纏い始めています。目に緑が美しい季節となってきました。春から初夏へ季節の変わり目に差し掛かってきたようです。



【本校裏門のつつじ】

～開校65年目の変化～

過日に発行した開校記念日号でも触れましたが、本校は今年で開校してから65年目となります。“一つの区切りを迎える年”という捉えもできる今年は、奇しくも施設面で大きな転換期を迎えることとなりました。

5月1日からは、本格的に日本語特別支援教室東中分室が開室され、塚越地区の児童生徒への日本語指導が本格化します。また、同月26日からは、e-station(通称e-sta エスタ)も開室します。外国籍児童生徒への日本語指導の充実と学びの保障と居場所づくりによる児童生徒への支援の充実のための具体的な対策が始まることとなります。施設稼働に伴う運用面において、従来までとは異なる場面も出てくるかもしれませんが、保護者や地域の皆様には、何卒ご理解ご協力を頂きたいお願い申し上げます。

～Step Up Roomからe-staへ～

重複しますが、これまでStep Up Roomとして使用していた場所を、設備面での整備を図り、e-staとして新たな稼働を迎えます。e-sta選任の松井先生と島村支援員さんが、始業式以降、継続通室を考えている生徒たちとともに、自分たちの居場所としてどうあれば良いかを考え意見を出し合いながら、新しい教室づくりを行ってくれました。私は都度都度その様子を見ていましたが、先生と生徒たちが一緒になって、これから始まるe-staについて考え、実際には新しく使用する机を綺麗にしたり、床や壁を綺麗にしたりと、能動的に活動していた姿が何よりも嬉しく感じました。生徒たちも今まで以上に前向きな感じで活動しており、“昨年度までとは違うな”という実感を持ちました。やはり、施設の変更という物理的な変化はそれだけにとどまらず、気持ちの面や心理的な部分にも良い影響を及ぼしているのでしょう。これも“変わり目”の一つなのでしょう。

～2025年は様々な節目の年～

今年は、昭和で数えると「昭和100年」だそうです。また、先の大戦終結から「80年目となる年」。同時に、21世紀が始まってから4分の1を過ぎようとしている節目の年に、様々な変化や新しい動きが出始めています。それらにしっかりと目を向け、丁寧に対応していくことが求められている気がしています。

— 了 —